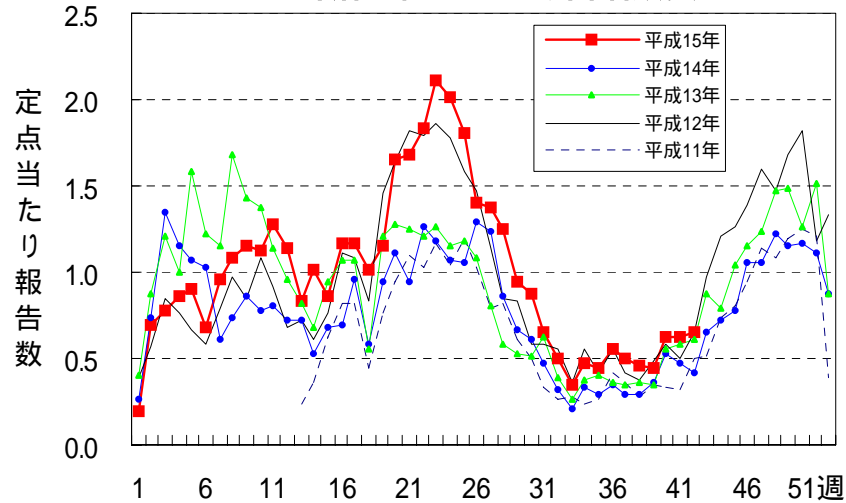


## 流行状況

### A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎



疾患名	前週	今週	備考
<u>感染性胃腸炎</u>	2.1 ▲	1.8 ▼	細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢症
<u>A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>	0.63 ▶	0.66 ▲	レンサ球菌のうち血清型分類の A 群に分類されるものによる上気道感染症
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.23 ▶	0.46 ▲	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 4 定点からコメントでの患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
▼ 減少	▶ 横ばい	▲ 増加

感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> )

## トピックス

### A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

【平成 15 年 10 月 22 日現在】

第 25 週（6 月 16 日～22 日）の週報でもお伝えしましたが、今年の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の県全体の定点あたり報告数は、第 23 週（6 月 2 日～8 日）が 2.1 と、感染症新法が施行され患者発生数が報告されるようになった平成 11 年以降としては、最も報告数の多かった平成 12 年度の最高値 1.9(第 23 週)よりも多くなりました。その後、定点あたり報告数は急激に減少し、第 33 週（8 月 11 日～17 日）に 0.34 と最低値を記録した後、0.5 程度で第 39 週（9 月 22 日～28 日）まで経過してきましたが、第 40 週（9 月 29 日～10 月 5 日）と第 41 週（10 月 6 日～10 月 12 日）において 0.63 と若干の増加をみました。第 42 週（10 月 13 日～10 月 19 日）現在の定点あたりの患者報告数は 0.66 と、第 41 週より若干増加しています。なお、第 42 週現在、県内において警報の発令されている保健所管轄地域はありません。しかしながら例年、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の報告数は第 40 週を過ぎたあたりから増加し始め、年末にかけて次のピークを迎えるため、特に医療関係者におかれましては患者の増加に注意をしてくださるようお願いいたします。

以下に、本疾患の特徴を簡単にまとめました。

#### 1. A 群溶血性レンサ球菌とは

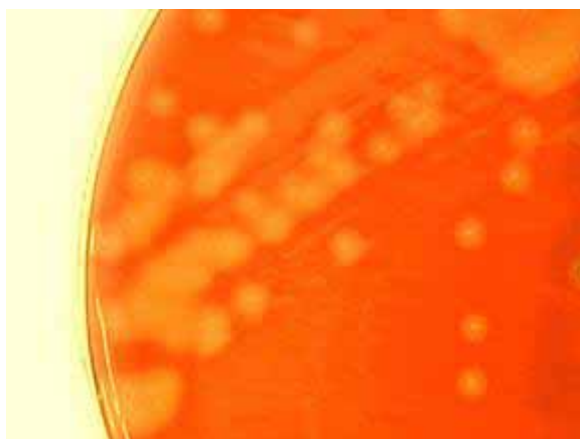


図 1 血液寒天培地上の A 群溶血性レンサ球菌  
血液が溶けてコロニー（菌の固まり）の周りが透けて見える（溶血環）

溶血性レンサ球菌はグラム陽性（細菌の型別分類法のひとつ）の球菌です。この名前は血液寒天培地（培地にウサギなどの血液が入った培地）で菌を培養すると、菌の周りの血液を溶かす（これを溶血という）性質があり、また、菌を顕微鏡で見ると球形の菌が鎖のように連なって見えることから、このような名前が付けられています。

（図 1）。

溶血性レンサ球菌は A から E の群に大きく分けられ、その中で A 群溶血性レン

サ球菌は T および M 血清型別分類によってさらに細かく分けることができます。これらの血清型別は A 群溶血性レンサ球菌の疫学解析に用いられています。

## 2. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とその発生状況について

A 群溶血性レンサ球菌は咽頭炎だけでなく、皮膚のおでき、リウマチ熱、急性糸球体腎炎、劇症型 A 群レンサ球菌感染症（人喰いバクテリア）などいろいろな病気を起こしますが、この中で最も患者数が多いのが小児の咽頭炎です。咽頭炎は 4 歳から 9 歳までの小児に最も多く発生し、小児の代表的な病気のひとつです。症状は発熱（38.5 度以上）、咽頭痛ないし扁桃痛が強く、

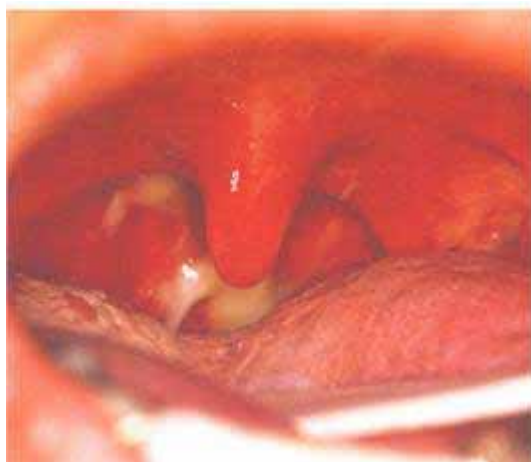


図 2 A 群レンサ球菌感染症患者の咽頭炎所見  
衛生微生物協議会溶血レンサ球菌レファレンスシステムセンター資料より抜粋

悪心、嘔吐、時に腹痛を伴います。その発生は秋から冬にかけて多発と言われていましたが、最近では 1 年を通じて発生が認められます。実際、国の感染症情報センターによると、過去 10 年間でも 7~9 月の夏季を除き、1 年を通じて認められています。

現在、感染症法で四類感染症に指定されている A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全国の定点病院から患者発生数が報告されています。その報告によると我が国で年間約 11 万人の患者が発生しています。リウマチ熱や急性糸球

体腎炎は A 群溶血性レンサ球菌による咽頭炎が治った後、数週間後に出現することがある疾患で、咽頭炎治癒後もしばらくはお子さんの健康に注意して下さい。

## 3. 治療と予防

レンサ球菌は薬剤耐性菌（抗生物質が効かない菌）が比較的少なく、抗生物質がとても有効です。したがって、この時季お子さんが熱を出して扁桃腺を腫らした場合には、単なる“喉痛”と余り甘くみることなく、かかり付けの先生等を受診されることをお勧めします。一般にはペニシリン系抗生物質がよく用いられるようですが、薬が処方された場合には、主治医の先生の指示通りキチンと薬を飲むことが大切です。また、どんな薬が処方された時も同様ですが、万一副作用や変だなといった症状が出現した場合には、直ちに医師に報告して、指示を仰いでください。また、予防接種など A 群溶血性レンサ球菌に的を絞った効果的な予防策は有りませんが、この菌は手指などの体の表面やのどから体内に侵入し、病気を引き起こしますので、衛生管理の基本である手洗い、うがいの励行が非常に重要かつ有効です。

## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

病原性大腸菌O1 1歳女、12歳女、

病原性大腸菌O18 1歳男、4歳男、58歳女

病原性大腸菌O124 6歳女、8歳女

カンピロバクター 12歳女、14歳男、29歳女、36歳女

ロタウイルス 大人1名、子供10名

黄色ブドウ球菌 8歳女

感染性胃腸炎において、病原性のあるものが多すぎる様な印象を受けます。

ロタウイルス感染症が増加中です。

パラインフルエンザ見受けられます。

【尾西市 城後小児科】

マイコプラズマ肺炎 3歳女

【稲沢市 野村整形外科】

手足口病がまだ見られます。

咳と高熱の上気道炎がはやっています。年長児は発熱がない様です。

【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎が増加しています（軽症例が大多数です）。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

ほとんどおちついていきます。

水痘散発中

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

10歳女、30歳女 マイコプラズマ肺炎

【春日町 丹羽医院】

### 尾張東部地区

流行性耳下腺炎、マイコプラズマ感染が多くみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

5歳女 サルモネラO9 発熱、腹痛、血便著明なため入院

今週もマイコプラズマ感染非常に多くみられました（幼児、学童、成人共に幼児では入院例もあり）。

今週は幼児のアデノウイルス感染症が目立ちましたが、咽頭結膜熱はありませんでした。

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

サルモネラ 10/14 5歳女

【尾張旭市 旭労災病院】

アデノウイルス感染症 1例（2歳 浸出性扁桃炎）

マイコ肺炎 2例

水痘少々

胃腸かぜが増えてきました。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

---

化膿性扁桃炎 2歳男 1例あり。  
他は喘息発作が目立ちます。

【春日井市 かちがわ北病院】

細菌性腸炎（サルモネラ）多し

【小牧市 小牧市民病院】

溶連菌感染が増加傾向です。

【小牧市 志水こどもクリニック】

流行性耳下腺炎が増えてきました。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

流行性耳下腺炎が流行の気配です。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

---

### 西三河地区

---

7歳男 カンピロバクター腸炎

1歳女 イムノカードST(+) (アデノウイルス感染)\*1

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

\*1 イムノカードSTアデノウイルス：アデノウイルス抗原検出用キット

6歳女、7歳男 カンピロバクター

9歳女 イムノカードSTアデノウイルス+

5歳男 カンピロバクター、病原性大腸菌O1、O25+ VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

2歳男 病原性大腸菌O1+

3歳男 サルモネラ菌

【岡崎市 花田こどもクリニック】

8歳男 マイコプラズマ肺炎

【岡崎市 医療法人深田小児科】

3歳女 病原性大腸菌O1

10ヵ月女 病原性大腸菌O166、病原性大腸菌O18

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

ムンプス流行中 6人

【知立市 宮谷クリニック】

1歳女 サルモネラO9

2歳女 病原性大腸菌O112 VT(-)

4歳女 アデノウイルス扁桃炎(チェックAd+)

【幸田町 とみた小児科】

29歳女 ヘルパンギーナ

【西尾市 やすい小児科】

発熱なく咳が長引く感冒が目立ちます。

【西尾市 山岸クリニック】

---

### 東三河地区

---

鼻汁の出る子が増えています。

軽症の中耳炎の併発例も多くなりました。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

---

散発的に水痘がみられます。

季節柄いわゆる ” かぜ ” ひきが目立ちます。

【田原市 かわせ小児科】

### 1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

#### 腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	豊田市	5	女	10 / 8	10 / 10	10 / 15	0157 VT2(+)	
*	春日井	17	男	7 / 21	7 / 22	7 / 25	0157 VT1(+) VT2(+)	30週分追加報告

#### 細菌性赤痢

*	春日井	29	男	10 / 1	10 / 8	10 / 11	推定感染地域 国内 (41週分追加報告)
---	-----	----	---	--------	--------	---------	----------------------------

### 全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

発生報告無し

## 第 40 週(15 年 9 月 29 日～10 月 5 日)の 4 類感染症 (全国)

### 小児科定点報告疾患

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第 29 週をピークとし、その後は週により緩急はあるものの減少し続けているが、相変わらず第 16 週以降過去 10 年間の当該週と比較して最高の値である。都道府県別では鳥取県(1.0)、愛媛県(0.9)、高知県(0.6)が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第 34 週から緩やかな増加傾向が認められているが、最近でも 2 週続けて増加している。都道府県別では鳥取県(2.1)、秋田県(1.3)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は 2 週続けて増加し、過去 5 年間の同時期(前週、当該週、翌週)と比較してやや多く、都道府県別では富山県(5.3)、山口県(4.3)が多い(「注目すべき感染症」参照)。手足口病の定点当たり報告数は第 29 週をピークとし、5 週続けて減少した後、第 35、36 週と 2 週続けて微増したが、その後再び減少し続けている。都道府県別では岩手県(5.4)、秋田県(5.1)、熊本県(4.3)が多い。

### 基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加して 0.30 で、都道府県別では岡山県(1.4)、茨城県(1.3)が多い(「注目すべき感染症」参照)。

### 注目すべき感染症

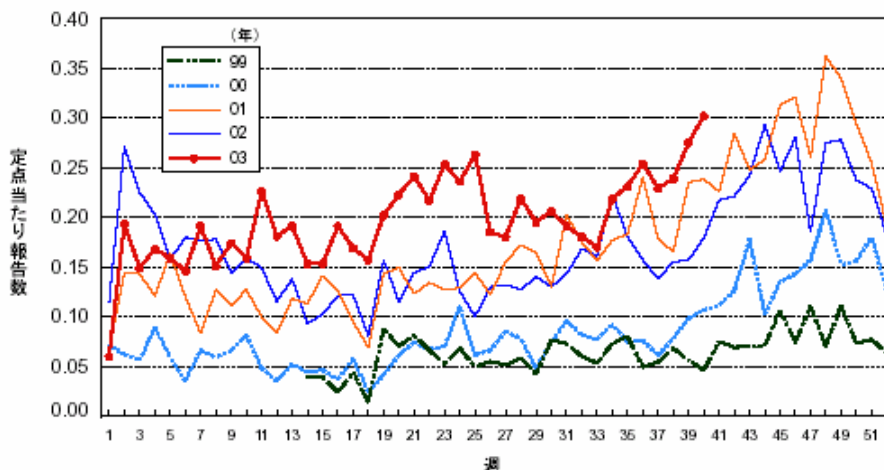
#### マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、1999 年 3 月までの旧感染症発生動向調査では異型肺炎として報告されてきたが、そこでは必ずしもマイコプラズマ肺炎だけでなく、他のウイルス性の肺炎なども含まれていた。しかし、1999 年 4 月以降の発生動向調査では、マイコプラズマ肺炎として独立した 4 類感染症定点把握疾患となった。また、旧発生動向調査では小児科・内科定点からの報告であったが、現在は全国約 500 カ所の基幹定点医療機関からの報告となっている。

本疾患は従来、4 年周期でオリンピックのある年に流行を繰り返してきたが、近年この傾向は崩れつつある。年間での推移をみると、晩秋から冬にかけて増加がみられていたが、感染症法施行後に新たなサーベイランスシステムになっても、この傾向に変化はない。図に感染症法施行以来の週別の定点当たり報告数を示す。2003 年の報告数は過去の報告より高く推移している。今年は 5 月下旬～6 月上旬に報告数が多かったが、ここ数週間でも報告数の増加がみられており、今後の動向に注意が必要である。今冬の SARS 対策としても、鑑別診断としてインフルエンザやマイコプラズマ肺炎のような呼吸器感染症は重要であり、可能な限り病原体を把握することが望まれる。



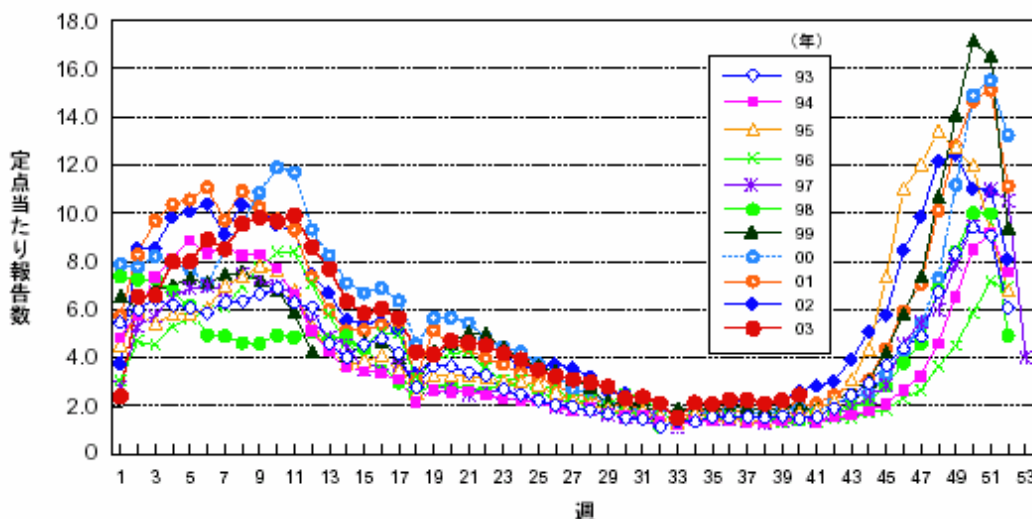
図. マイコプラズマ肺炎の年別週別発生状況



感染性胃腸炎

「感染性胃腸炎」は、サーベイランスのための疾患概念であるが、過去のデータからすると、腸炎ビブリオ、サルモネラなど細菌性のものが夏季の発生の原因になっていると考えられ、一方、ウイルス性、特にノロウイルスによる流行が12月のピークを形成し、その後春のピークはロタウイルスによって形成されると推定されている。第40週の定点当たり報告数は、わずかながら上昇している。また、富山県、山口県、三重県などのいくつかの都道府県では、定点当たり報告数が4.0を超えている。年齢群別では1歳、2歳の報告が多い。全国的にみても徐々に報告数が増加する時期であり、予防のためには手洗いの励行などが重要である。

図. 感染性胃腸炎の年別週別発生状況



( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供 )

詳細は感染症情報センター - のホームページ ( <http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html> ) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。







愛知県感染症情報

2003年第1週～第42週(平成14年12月30日～平成15年10月19日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
<b>愛知県 (名古屋市を含む)</b>	191	182	35	51	13	47,887	1,458	7,518	28,841	11,979	10,742	1,679	5,639	72	61	6,494	169	4,770	32	1,234	1	7	13	184	0	4
<b>総数 (名古屋市は除く)</b>	121	112	24	37	12	38,582	1,090	5,383	19,782	9,598	9,154	1,353	4,510	59	40	4,716	135	3,823	27	897	1	7	12	180	0	4
名古屋	70	70	11	14	1	9,305	368	2,135	9,059	2,381	1,588	326	1,129	13	21	1,778	34	947	5	337			1	4		
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	2,755	75	872	1,256	436	193	42	262	7	2	493	13	436	1	39						
海部	津島	7	7	2	2	1,341	47	91	1,460	525	887	77	218	2		238	2	169	2	29			1	17		
尾張中部	師勝	4	4	1	1	1,378	13	136	1,181	178	183	21	106		5	393	1	166	1	20						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	2,712	44	387	2,504	811	835	139	506	7	1	349	4	248	1	141			1	1		
尾張北部	春日井	9	9	2	3	4,291	129	424	1,282	655	782	204	374	3	4	465	7	354	1	70	1	2	2	1		1
	江南	6	6	1	2	1,522	68	331	1,830	577	753	98	335	3	1	210	1	123		47						
知多半島	半田	6	6	1	2	1,915	19	198	742	224	156	56	241		1	159	1	222		18		1		13		2
	知多	7	7	2	2	2,364	115	460	1,318	630	429	84	323	1	1	343	28	154	2	32						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	4,159	33	339	264	939	595	159	549	12		363	1	577	3	84						
	衣浦東部	11	11	2	4	5,878	78	428	1,221	1,156	927	118	433	5	1	381	14	683		104			2	15		
	西尾	5	5	1	2	1,190	17	238	683	446	326	98	182	1	2	144	10	167		51			4	7		1
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	2,409	91	284	1,344	859	492	74	300	14	17	375	12	293	7	113			2	43		
	加茂	3	3		1	489	16	204	437	152	162	13	53	1	3	83		48								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	3,088	229	627	2,618	866	1,170	96	349	1		365	25	45	7	90		4		41		
	豊川	9	8	1	2	2,839	116	362	1,642	1,088	1,214	74	257	2	2	353	13	112	2	59				42		
東三河北部	新城	2	2			252		2		56	50		22			2	3	26								

\* 衣浦東部保健所から40週(1例)の追加報告あり

愛知県感染症情報

2003年第1週～第42週(平成14年12月30日～平成15年10月19日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎 (日本脳炎を除く)	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
計	38,582	1,090	5,383	19,782	9,598	9,154	1,353	4,510	59	40	4,716	135	3,823	27	897	1	7	12	180	0	4
～6ヶ月	518	6	14	234	254	73	8	388	9		70	2	2		5						
～12ヶ月	1,096	39	26	1,284	585	448	47	2,725	13	2	446	27	22		13						
0歳																	3		3		
1歳	3,227	163	132	3,015	1,724	1,664	74	1,291	14	5	1,165	33	178		28				16		
2歳	3,245	172	299	2,241	1,619	1,615	120	83	3	2	906	9	307	1	24				17		
3歳	3,321	168	658	2,197	1,791	1,745	152	10	4	1	830	6	582	2	28				19		
4歳	3,516	163	1,008	1,931	1,670	1,516	203	1	4	3	563	8	760		25				16		
5歳	2,262	136	1,047	1,514	1,025	998	221	2	2	6	381	6	735	1	30						
6歳	1,825	82	767	1,126	421	471	182	4		1	150	7	452		10						
7歳	1,466	51	454	874	176	210	102	1	2	4	72	5	262		11						
8歳	1,304	39	303	706	114	137	99	3	2	3	32	4	177	1	13						
9歳	1,336	20	177	546	62	66	45			1	36	2	97		8						
5歳～9歳																		3	42		
10歳～14歳	4,860	22	242	1,308	97	95	68	2	2	3	28	17	159	1	36				25		
15歳～19歳	1,574	3	23	380	9	9	1				8	3	15		31			1	4		
20歳～		26	233	2,426	51	107	31		4	9	29	6	75			1	4				
20歳～29歳	2,768													10	147			3	10		2
30歳～39歳	3,054													2	186			3	14		1
40歳～49歳	1,182													2	90			2	5		1
50歳～59歳	892													3	102				2		
60歳～69歳	597													1	62				2		
70歳～														3	48						
70歳～79歳	352																		4		
80歳以上	187																		1		

\* 衣浦東部保健所から40週(1例)の追加報告あり